

Algal Science and Technology 投稿規定

1. Aims and Scope

Algal Science and Technology は、日本応用藻類学会が発行する和英混在の学術誌で、藻類を対象とした重要かつ独創的な、新規性に富んだ知見について、文理問わず基礎研究から応用研究まで幅広い内容を対象とする論文を掲載する。

本雑誌は冊子体で年 2 回発行され、掲載論文は JST におけるオープンアクセスで公開される。本誌で掲載する論文の種類は、総説 (Review Article)、原著論文 (Original Research Article)、短報 (Short Communication)、技術報告 (Technical Note)、見解 (Perspective) の 5 種類である。いずれの論文も、他の刊行物に発表されていないものにかぎる。原著論文、技術報告、短報は、未発表の独自の研究を報告するものである。それ以外の論文は、過去の研究の要約であっても構わないが、重要な洞察や新鮮な視点を加えたものでなければならない。

2. 原稿種別

本誌は、以下に挙げる種別の原稿 (5 種) を掲載する。全ての原稿を査読の対象とする。各種別には刷り上がりページの基準がある。大まかな目安として、図や表がない場合には、和文では 2,500 文字、英文では 1,000 words が刷り上がり 1 ページに相当する。

2.1 総説 (Review Article)

特定の研究分野やテーマに関する既存の文献や研究成果を体系的にまとめ、分析し、評価する論文。その分野における現在の知見や研究動向を包括的に紹介し、全体像を把握するもの。刷り上がりは 10 ページ以内とする。

2.2 原著論文 (Original Research Article)

学術的な分野における新しい研究結果や発見を報告するための論文。自らの実験や調査を通じて得たデータを基に書かれており、学术界での知識の発展に貢献するもの。刷り上がりは 8 ページ以内とする。

2.3 短報 (Short Communication)

特定の研究分野における新しい知見や発見を迅速に報告する論文。原著論文よりも短い形式、要点を簡潔に伝えるもの。また、既に出版された論文に追加のデータを提供するために発表される論文で、元の論文では触れられなかったが、新たな成果を含む研究で重要であるもの。刷り上がりは 4 ページ以内とする。

2.4 技術報告 (Technical Note)

特定の技術、方法、または装置による新しい開発や改良について紹介するための論文。研究者や技術者が使用する新しい技術的な手法を記載し、他の研究者がその技術を再現、応用できるようにするもの。刷り上がりは 8 ページ以内とする。

2.5 見解 (Perspective)

特定のテーマや研究分野における新しい視点や考え方を提供するための論文。現存する問題、基本概念、一般的な考え方について独自の新しい見方を提示し、新たに実現されるイノベーションについて検討するもの。刷り上がりは 2 ページ以内とする。

3. 倫理指針

本誌に原稿を投稿する前に、著者は本誌の方針を読み、遵守していることを確認しなければならない。編集委員がこれらの方針に準拠していないと判断した原稿に対し、本誌は査読なしで却下、または撤回する権利を保持する。本誌の著者、編集委員、査読者、出版者が被る研究倫理および出版倫理に関する責任を以下に示す。本誌へ投稿される原稿は、いかなる言語においても原稿の一部または全部が未発表・未発行の内容であり、本誌以外の媒体において出版が検討されていないものに限る。

3.1 オリジナリティー

本誌へ投稿される原稿は、オリジナルのものに限る。本誌では、剽窃チェックツールを使用して原稿の内容がオリジナルであるかどうかをスクリーニングする場合がある。本誌に原稿を投稿することにより、著者はこのスクリーニングが行われることに同意したものとする。原稿が不適切なレベルでオリジナルでない内容を含んでいる場合、編集委員判断で却下、または撤回されることがある。

3.2 プレプリント

本誌では、投稿前または投稿と並行して **bioRxiv** や **Jxiv** などのプレプリントサーバーに、著者が原稿を投稿することを認めている。ただし、投稿する際、カバーレターにこの点について言及すること。プレプリントサーバーへの論文投稿は、一次研究を記述した原稿のオリジナルな版にのみ適用される。査読者のコメントを受けて修正された原稿、出版のために受理された原稿、ジャーナルに掲載された原稿は、プレプリントサーバに掲載してはならない。また、原稿が本誌から出版されたらすみやかに、プレプリントに本誌の原稿へのリンクを含める必要がある。

3.3 オーサーシップ(著者資格)

本誌へ投稿された原稿は、全ての著者が著者リストについて承認したものと見なす。原稿投稿後の著者リストの変更(著者名の追加や削除、著者順の再配置など)は、著者全員および編集委員の承認を得る必要がある。著者は、国際医学雑誌編集者委員会(ICMJE)の「著者と研究貢献者の役割の定義」に関する勧告を検討することが推奨される。ICMJEは、オーサーシップ(著者資格)は、次の4つの基準に基づくことを推奨している:①論文の構想やデザイン、あるいは当該研究のデータ取得、分析、解釈に実質的に貢献していること。②科学的に重要な内容について草稿を作成したり、批判的に改訂したりすること。③最終版の原稿の出版を承認すること。④当該論文に関する全てに責任を負うことに同意すること。以上の4つの基準を全て満たした研究貢献者は、原稿の著者とすべきである。4つの基準を全て満たしていない研究貢献者は原稿の著者とせず、代わりに謝辞のセクションに記載すべきである。すべての著者は、著者貢献のセクションに、役割を記載する必要がある。

3.4 画像の同一性

著者は、画像をデジタル加工・処理することができるが、以下のすべてを満たすものでなければならない。①調整が最小限に抑えられていること、②(局所的・部分的な加工でなく)画像全体に施されていること、③コミュニティの基準に沿った処理であること、④処理を行った旨を原稿に明確に記載していること。原稿に含まれる全ての画像は、元のデータを正確に反映していなければならない。著者は、画像について部分的な移動、削除、追加、強調を行ってはならない。編集委員は著者に対し未加工のオリジナル画像の提出を要求する権利を有する。要求された画像が提出されなかった場合、原稿は却下または撤回されることがある。

3.5 著作権のある資料の転載

著者自身が著作権を保持しない資料が原稿に含まれている場合、著者はその著作権者から転載について許諾を得る必要がある。既に出版されている資料が原稿に含まれている場合、著者はその著作権者および出版者から転載について許諾を得る必要がある。原稿の投稿時には、転載する資料すべてについての転載許可書のコピーを原稿に添付しなければならない。

3.6 動物／ヒト臨床試験

著者は、ヒトまたはヒト由来の物質が関与する実験を記載した原稿について、ヘルシンキ宣言およびその改訂版、ならびに著者の所属機関が承認するガイドラインに具体化された原則に従って研究を実施したことを証明しなければならない。著者は、研究への参加および研究の公表に関して参加者からインフォームド・コンセントを得た際の手順を原稿に記述しなければならない。本誌は、国際医学雑誌編集者委員会(ICMJE)の臨床試験登録に関する方針に準拠しており、掲載を検討する条件としている。全ての臨床試験が最初の患者登録時またはそれ以前に公的な臨床試験登録システムに登録されることを推奨する。臨床試験に関する原稿には、臨床試験登録システム名および登録番号を記載しなければならない。さらに、本誌では、著者に EQUATOR Network の「健康研究のための報告書ガイドライン(<http://www.equator-network.org/reporting-guidelines/>)」に従うことを求める。研究の種別には、ランダム化試験、観察研究、系統的レビュー、症例報告、定性的研究、診断・予後研究、経済的評価、動物を用いた前臨床研究、研究プロトコルなどが含まれるが、これらに限らない。

動物や動物由来の試料を対象とした実験について記述している論文の著者は、著者の所属機関の動物実験委員会等が定めるガイドラインに従って研究が行われたことや承認して行われたことを明示しなければならない。これらの点に関して問題があると編集委員会が判断した論文は却下されることがある。

3.7 標本の採取

野生生物の標本やサンプルの収集に関する原稿には、その出所と収集方法についての詳細な情報を記載すること。著者は、関連する倫理ガイドライン、現地の法律、研究を実施した際の採取許可について原稿に記載しなければならない。

3.8 著者の利害関係と利益相反

本誌は、全ての著者に投稿した原稿に関連する競合または利益相反がある場合、その旨を宣言することを求めている。利益相反は、著者の公平な研究の実施および報告に影響を及ぼす可能性のある状況が顕在する／認識されている／潜在する場合に生じる。利害の衝突の可能性としては、商業的または財務的な利害の競合、商業的な所属、コンサルティングの役割、株式の所有等が例として挙げられる。著者は、論文で記載される研究遂行のための資金の出所を原稿の資金のセクションに記載する必要がある。

3.9 守秘義務

本誌は、未発表原稿の機密性を保持する。本誌へ原稿を投稿することにより、著者は原稿に関する全ての連絡(編集部、編集委員、査読者からの連絡)の機密事項を厳守することを保証するものと見なす。

4. 査読プロセス

本誌への投稿原稿は、編集委員会が審査する。全ての論文については、シングル・ブラインド方式で複数の研究者による査読を行う。査読の結果、修正が必要と判断された場合は、その理由を明記して著者に返送し、修正を求める。編集委員会が掲載に適さないと判断した場合は、原稿を返却する。また、掲載が認められた論文についても、軽微な修正を求めることがある。

もし掲載された論文が重大な誤りを含み、そのままでは放置できない場合や、データの捏造・改ざん・盗作などの不正行為が発覚した場合、受理を撤回することがある。また、著者の総意で論文の取り下げや訂正再発行を希望する場合は、編集委員会の審査を経て、それを認めることがある。ただし、訂正再発行にかかる費用は著者が負担する。

4.1 編集および査読プロセス

本誌は、シングル・ブラインド方式の査読を採用している。本誌に投稿された原稿は、編集委員によって一次審査が行われる。ジャーナルの範囲に合わないものや掲載に適さないと判断されたものは、査読を経ずに却下

される。一次審査を通過した原稿は、編集委員が指名する2名以上の査読者によって審査が行われる。査読者は、専門知識、評判、査読者としての経験などを考慮して選出される。査読レポートの提出期限は、原稿種別によって異なる。査読者から提出されたレポートを受けて、編集委員が最初に原稿の採否を決定する。原稿の修正を求める決定がなされた場合、著者は3ヶ月以内に修正後の原稿を再提出する。この期限を過ぎて提出された修正原稿は、新規投稿として扱う場合がある。編集委員は、修正後の原稿を査読者に送付してフィードバックを受けるか、あるいは修正原稿に編集委員や査読者のコメントが反映されているかを編集委員自身で評価する。その後、編集委員は原稿の出版適否について編集委員長に推薦を行う。編集委員長は、各原稿の出版に関し最終決定を行う責任を負う。編集委員長が投稿原稿の著者である場合は、編集委員会のメンバーが最終的な掲載適否の判断を行う。

4.2 査読者の選定

査読者は、当該分野における専門知識、研究実績、他者からの推薦、本誌における査読者としての経験に基づいて選出される。査読者のオファーは論文投稿後2週間以内に行われる。査読者は、査読へのオファーを受諾してから3週間以内に最初の査読レポートを提出することが求められる。本誌に原稿を投稿する際、著者は、カバーレターに査読に参加してほしい、または除外してほしい査読者を提示することができる。

4.3 採択基準

原稿が本誌の掲載要件を満たし、出版された際に本誌へ大きく貢献すると思われる場合、編集委員は本誌への掲載を推薦する。本誌に掲載される論文の採択要件は以下のとおりである。

- 本誌の取り扱う領域内の内容であること。
- 新規性および独自性があること。
- 研究について技術的に厳密な記述がされていること。
- 本誌の読者の関心が高い事項であること。

原稿が本誌の採択要件を満たしていない場合、編集委員は却下を勧告することがある。

4.4 異議申し立て

編集上の判断に誤りがあると思われる場合、著者は編集部に異議を申し立てることができる。異議申し立ては、著者が査読者や編集委員の誤解や誤りの詳細な証拠を提示した場合にのみ検討される。異議申し立ては編集委員長が慎重に検討し、最終決定を行う。判断、処理については出版倫理委員会(COPE)のガイドラインに従う。

4.5 エラータと撤回

掲載された論文に誤りがあった場合、エラータの発行により訂正する。エラータには、出版物の科学的な公正性、著者の評判、ジャーナル自体に重大な影響を与える誤りを記述する。掲載された論文の訂正を希望する著者は、原稿を担当した編集委員または編集委員会に、誤りの詳細と変更後の内容を連絡する。

掲載された論文が、無効または信頼できない結果や結論を含む場合、他の場所で発表されていた場合、行動規範(研究倫理または出版倫理)を侵害している場合に撤回を行う。論文の撤回を要求する個人は、懸念事項の詳細を本誌編集部に連絡する。編集委員長は、調査を行い当該論文の著者に連絡して回答を得る。エラータまたは撤回についての決定は、編集委員長の裁量で行われる。

4.6 ジャーナルの著者としての編集委員

編集委員長を含む本誌の編集委員が原稿を投稿した場合、自身は当該論文の査読プロセスから除外され、原稿の詳細を閲覧することはできない。本誌の編集委員が執筆した原稿は、他の原稿と同様のプロセスで査読と編集上の決定が行われる。

4.7 倫理違反の可能性がある場合の対応

本誌は、倫理違反の申し立てがあった場合には、自誌の方針および出版倫理委員会 (COPE) のガイドラインに従って対応する。

5. 著作権, オープンアクセスと料金

本誌は、完全オープンアクセスであり、クリエイティブ・コモンズ (CC) ライセンスを使用している。このライセンスは、利用者が本誌に掲載された論文を無償かつ出版者や著者の事前承諾を得ることなく使用、再利用を許可するものである。CC ライセンスの詳細は以下の通り。

5.1 著作権とライセンシング

本誌に掲載された論文の著作権および版権は、日本応用藻類学会に帰属する。掲載論文は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス「CC BY」の条件に基づいて配布されており、これに反する使用、配布、複製は認められない。

5.2 論文掲載料 (APC)

本誌では、全ての原稿に対して APC の支払いが発生する。採択された原稿の著者には、掲載前に APC の請求書が発行される。

5.3 ウェイバー方針

責任著者が Research4Life において「グループ A」に分類された国の出身者である場合、本誌への掲載費用を免除する。経済的に困難であることが証明された場合、本誌は、投稿前の段階における責任著者からの編集委員会編集長への申請をもって、掲載費用の免除を検討する。査読開始後の申請は認めない。

5.4 掲載料金 (ページチャージ)

掲載料は 1 論文あたり 30,000 円とする。ただし、日本応用藻類学会の会員が責任著者である場合、掲載料は免除される。ページチャージは、すべての論文において規定の刷り上がりページ数の上限以内でモノクロページであれば無料とする。規定の上限は、総説 (Review Article) が 10 ページ、原著論文 (Original Research Article) および技術報告 (Technical Note) が 8 ページ、短報 (Short Communication) が 4 ページ、見解 (Perspective) が 2 ページと定める。上限を超えた場合、超過したページごとに 12,000 円の追加料金が発生する。また、カラーページの場合、さらに 1 ページにつき 12,000 円の追加料金が必要となる。なお、編集委員会から招待された論文については、掲載料およびページチャージは原則として無料とする。

6. 原稿の投稿

原稿は、編集委員長宛 E メールで提出すること。初回投稿時には、本文、表、図、その他の資料を含む PDF ファイルと、投稿フォーム (原稿テンプレートを学会ウェブページから入手可) を合わせて提出すること。原稿の修正に関する説明は、修正が必要との判断がなされた場合、初回判定結果と共に提供される。

7. 原稿の準備 (執筆要項)

7.1 書式スタイル

原稿は、Microsoft Word またはその他の適切なソフトウェアで作成する。Word ファイルの書式は、以下の設定とする。ひな形ダウンロードは、学会ウェブページからダウンロードできる。

用紙サイズ	A4
余白	上下左右各 2 cm
フォント	日本語「MS P 明朝」、英語「Calibri」
フォントサイズ	10.5 pt

文字	横書き 50 字×27 行／ページ(MS Word 段落 行間設定「1.5 行」に相当)
ページ番号	ページ下中央(全ページ)
行番号	原稿の左側に通し番号を付す(図表以外)
句読点	ピリオドとカンマを用いる. (1) 日本語の句点は全角のピリオド(.), 読点は全角のカンマ(,)とする. (2) 英語の句点は半角のピリオドと半角の空白(.), 読点は半角のカンマと半角の空白(,)とする.

なお、分野の違いなどで他の学術雑誌に却下された論文は、先の雑誌の査読結果を添付し、その雑誌のフォーマットで再投稿することができる。ただし、論文が受理された場合には、本誌の投稿規定に従ってフォーマットを修正する必要がある。

7.2 英語の水準

英文記載の場合、原稿は分かりやすく、文法的に正しい英語で書くこと。英語を母国語としない著者は、投稿前にネイティブスピーカーによるチェックを受けるか、英文校正サービスを利用することを強く推奨する。原稿の内容理解に支障をきたすレベルの英語で記述されている場合は、査読を経ずに却下されることがある。

7.3 原稿の構成

1) 総説 (Review Article)

- 表紙
- 第 2 ページ (Abstract, Keywords)
- 本文
- 謝辞 (Acknowledgments)
- 著者貢献 (Author Contribution)
- 資金 (Funding)
- 利益相反 (Conflict of interest)
- 補足資料記載 (Description of Supplementary data)
- 引用文献 (References)
- 表 (Tables)
- 図説明 (Figure legends)
- 図 (Figures)
- 補助資料 (Supplementary data)

2) 原著論文 (Original Research Article), 技術報告 (Technical Note)

- 表紙
- 第 2 ページ (Abstract, Keywords)
- 緒言 (Introduction)
- 材料および方法 (Materials and Methods)
- 結果 (Results)
- 考察 (Discussion)
- アクセッション (Accession numbers)
- 謝辞 (Acknowledgments)
- 著者貢献 (Author Contribution)

- 資金(Funding)
- 利益相反 (Conflict of interest)
- 補足資料記載 (Description of Supplementary data)
- 引用文献 (References)
- 表 (Tables)
- 図説明 (Figure legends)
- 図 (Figures)
- 補助資料 (Supplementary data)

3) 短報 (Short Communication)

- 表紙
- 第 2 ページ (Abstract, Keywords)
- 本文
- アクセッション (Accession numbers)
- 謝辞 (Acknowledgments)
- 著者貢献 (Author Contribution)
- 資金(Funding)
- 利益相反 (Conflict of interest)
- 補足資料記載 (Description of Supplementary data)
- 引用文献 (References)
- 表 (Tables)
- 図説明 (Figure legends)
- 図 (Figures)
- 補助資料 (Supplementary data)

4) 見解 (Perspective)

- 表紙
- 第 2 ページ (Abstract, Keywords)
- 本文
- 謝辞 (Acknowledgments)
- 著者貢献 (Author Contribution)
- 資金(Funding)
- 利益相反 (Conflict of interest)
- 補足資料記載 (Description of Supplementary data)
- 引用文献 (References)
- 表 (Tables)
- 図説明 (Figure legends)
- 図 (Figures)
- 補助資料 (Supplementary data)

7.4 原稿フォーマット

1) 1 ページ目

原稿の最初のページ(表紙ページ)は, 上から順に, タイトル, 英文タイトル(Title), 著者名, 英文著者名(Author), 所属, 英文所属および所在地(Address), Running Title を記載する.

タイトルは, 和文および英文で記載する. 同じ著者による一連の論文であっても, 共通のメインタイトル(表題)と番号付きのサブタイトル(副題)を使用したタイトルを設定してはならない. タイトルには, 関連分野で一般的に使用されているものを除き, 略語を使用しない.

著者:

著者全員のフルネームを記入すること. 連名の場合は「・」でつなげる. 責任著者には「+ (ダガー)」を上付きで付け, 連絡先として Email アドレスを記載する. 英文での著者名は, ファーストネーム, ミドルネーム, ファミリーネームの各単語について, 頭文字を大文字にし, 残りを小文字で表記する. 連名はカンマ(,)で区切り, 最後の著者名の前に「and」を入れる.

所属機関:

著者の正式な所属機関名(学部, 研究所/大学, 市区町村, 県, 国を含む)は, 和文と英文の順に記載する. 共著者が異なる所属にいる場合は, 各著者名に上付き数字を付けて区別する. また, 現所属や日本学術振興会特別研究員などを記載する必要がある場合は, 著者名に上付きアルファベット小文字を付けて示す. 所在地は「市区町村名」, 「都道府県名と郵便番号」, 「国名」を英文イタリック体で記載する.

ORCID iD:

著者が ORCID iD を取得している場合は, その ORCID iD を記載する.

Running Title:

論文の表題を和文 30 字ないしは英文 40 字以内で記載する.

2) 2 ページ目

英文要旨とキーワードを記載する.

Abstract (英文要旨):

研究の目的, 方法および結果を英文で 200 words 以内で簡潔明瞭にまとめる.

Keywords (キーワード):

英文要旨の下に記載する. 原稿内容と密接に関連する一般的な表現を英語で 3~8 個指定する.

3) 3 ページ目以降

- 総説(Review)は, 緒言(Introduction)の順から始め, 著者が定めたタイトルのセクションを続ける.
- 原著論文(Original Research Article)と技術報告(Technical Note)は, 緒言(Introduction), 材料と方法(Materials and Methods), 結果(Results), 考察(Discussion)のセクションに分けて作成する. 結果(Results)と考察(Discussion)は, 読者にとってより理解しやすいと判断される場合, 1 セクション(結果と考察 Results and Discussion)にまとめることができる,
- 短報(Short Communication)と見解(Perspective)は緒言(Introduction), 材料と方法(Materials and Methods), 結果(Results), 考察(Discussion)の各セクションをわけずに作成する.

- すべての論文は、考察の後に、謝辞(Acknowledgments)、著者貢献(Author Contribution)、資金(Funding)、利益相反(Conflict of interest)、補足資料記載(Description of Supplementary data)、引用文献(References)の順に必要なセクションを作成する。

緒言:

緒言では、論文の広範なレビューは含めず、読者が調査の目的や関連分野の他の研究との関係を理解できるように、十分な背景情報を提供する。

材料と方法:

読者が実験の追試が可能な詳細情報が記載されていなければならない。また、使用した化学物質、試薬や装置についてはその入手元を記載し、括弧内にその所在地(都市, 国)を記載すること。実験に危険物や危険な手順が用いられており、その取り扱いに関する注意事項が広く認知されていない場合は、厳守すべき詳細事項を記載する。

結果:

実験の結果を記載する。読者の理解や研究の評価に役立つ場合は、「結果」と「考察」のセクションを統合し「結果と考察」としてもよいが、編集委員が求める場合は分けて書き直すこと。実験結果の説明には、表や図(写真を含む)を用いてもよい。表や図で示されたデータの説明は過剰にならないようにする。

考察:

考察は簡潔にまとめ、結果の解釈を扱うものとする。新しいモデルや仮説は、実験で得られた結果から示唆される場合に限り、本セクションで提示できる。実験結果の記述を繰り返す内容であってはならない。

アクセッション番号:

遺伝子, cDNA, ゲノム, タンパク質, シーケンシングリードなどの配列は事前に International Nucleotide Sequence Database Collaboration (INSDC) 構成機関のデータベース (DDBJ, EBI, NCBI) に登録する。原稿にアクセッション番号を記載する。

謝辞:

研究に関する全ての助成元を完結にまとめて記載する。

著者貢献:

全ての著者について、オーサーシップ(著者資格)の基準に基づいた著者貢献を記載する。著者名はイニシャルだけで示す。

資金:

研究遂行に関連するすべての資金を記載する。

利益相反:

研究内容に偏見を生じさせる可能性のある経済的利益や関連性を記載しなければならない。著者に関連す

る商業的関係はすべて開示する。利益相反がない場合は、このセクションに、和文では「開示すべき利益相反事項はない」、英文では「No conflict of interest declared」と記載する。

補足資料記載 (Description of Supplementary data) :

すべての補足資料のタイトルを記述する補足資料記載のセクションを作成する。

引用文献 (References) :

引用文献は、本文の関連箇所に括弧内で筆頭著者の姓と年号を記載する。著者が2名の場合は、両者の姓を連記する(例:三上, 岸本 2018 または Mikami and Kishimoto 2018)。3名以上の場合は、筆頭著者の姓に「ら」または「et al.」を付けて記載する。また、データベースの引用については、引用元が指定する表記法に従うが、指定がない場合は、データベースの名称や URL を記載する。投稿中の論文は引用しない。修士論文や学会講演要旨集などの未発表のものは引用文献に含めず、文中に(未発表)と記載する。

《例》【和文】(山田 2007a), (山田, 田中 2007), (山田ら 2007), (山田 et al. 2007) 【英文】(Yamada 2007a), (Yamada and Tanaka 2007), (Yamada et al. 2007)

本文中で複数の文献を一括して引用する場合は、文献をセミコロン(;)で区切り、発行年の早い順に並べる。同じ年の文献が複数ある場合は、筆頭著者の姓のアルファベット順に並べる。

《例》(日渡ら 2014; 田代, 吉積 2014; 田代 2015; 日渡ら 2018; Takahashi et al. 2023; Ashino et al. 2024)

引用文献 (References) のセクションでは、筆頭著者の姓のアルファベット順、年代順に並べる。和文の文献でも、アルファベットに読み換えて順序を決定するが、記載は和文のまま行う。ピリオド(.), カンマ(,), コロン(:) セミコロン(;)などの句読点の使い方にも注意を払う。著者が10名を超える場合には、10名まで記載し、それ以降は「et al.」を記載して省略する。

- 雑誌

著者名. (西暦年号) 論文題名. 雑誌名 巻(ボールド): 頁(開始-終了). Doi (<https://doi.org/>)

著者名が英名の場合は、「姓 名(イニシャル)」とする。連名の場合は、カンマ(,)でつなぐ。雑誌名は文献略称を用いる。雑誌名が英文の場合はイタリック体にする。

《例》

田代有里, 小川廣男. (2020) 寒天のゲル形成能と分子量分布との関係. *Algal Resources* **13**: 107-110. https://doi.org/10.20804/jsap.13.2_107

Rochas C, Lahaye M, Yaphe W. (1986) Sulphate content of carrageenan and agar determined by infrared spectroscopy. *Bot. Mar.* **29**: 335-340. <https://doi.org/10.1515/botm.1986.29.4.335>

Sekkal M, Legrand P, Huvenne PJ, Verduis MC. (1993) The use of FTIR microspectrometry as a new tool for the identification in situ of polygalactanes in red seaweeds. *J. Mol. Struct.* **294**: 227-230. <https://doi.org/10.1111/j.1529-8817.2009.00684.x>

渡瀬峰男, 西成勝好. (1981) 採取時期を異にしたマクサ(*Gelidium amansii* LAMOUROUX) から抽出した寒天ゲルのレオロジー的研究. 日食工誌 **28**: 437-443. https://doi.org/10.3136/nskkk1962.28.8_437

- 単行本, 書籍

著者名(訳者名). (西暦年号) 章タイトル. 「書名」. (編者・監修者) 発行所名, 発行地. pp. 頁(開始-終了).

《例》

野田宏行. (1993) 海藻の化学. 「海藻の科学」. (大石圭一編) 朝倉書店, 東京. pp. 15-19.

Mikami K, Li L, Takahashi M. (2012) Monospore-based asexual life cycle in *Porphyra yezoensis*. In: Mikami K (ed).

Porphyra yezoensis: Frontiers in Physiological and Molecular Biological Research. Nova Science Publishers, New York, pp. 15-37.

- インターネット記事

著者名(編集者・監修者)。(西暦年号)記事題名。掲載日(更新日)。参照 URL(引用日)

《例》

長野県農政部プレスリリース。(2021) 令和 3 年(2021 年)10 月 18 日。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/enchiku/happyou/documents/20211018press.pdf> [参照 2022/04/02].

気象庁。(2022) オゾン全量の経年変化。気象庁ホームページ。令和 4 年 3 月 28 日更新。

https://www.data.jma.go.jp/env/ozonehp/diag_totalozn.html [参照 2022/04/02].

European Commission. (2024) EU agri-food surplus increased in the first half of 2024. September 27, 2024.

https://agriculture.ec.europa.eu/news/eu-agri-food-surplus-increased-first-half-2024-2024-09-27_en (Accessed October 3, 2024).

- 表(Table)

表はすべて英語表記とする。表にはアラビア数字を用いて通し番号をつける(Table 1, Table 2 など)。各表には英文タイトルを付ける。説明資料や脚注は表の下に配置し、a)やb)のように上付き文字で指定する。測定単位は、列の上部に数値を含めて記載する。表に示したデータを得るために使用した実験条件の詳細な説明は関連する他のセクションに含め、表の説明文中には記載しない。

- 図(Figure)

図はすべて英語表記とする。「図」には、線画、写真、チャート、グラフなどが含まれる。高解像度(300 dpi 以上)の画像を使用し、直接印刷できるようにサイズを調整する。幅はシングルカラムの場合は 8.6 cm 以内、ダブルカラムの場合には 17.8 cm 以内とし、高さは 24 cm 以内とする。写真の倍率は、凡例に示すか、写真に写っている目盛で示す。図にはアラビア数字で通し番号をつける(Fig. 1., Fig. 2.など)。それぞれの図には短いタイトルをつける。図に複数の画像が含まれている場合、各画像の左上隅に A, B, C と大文字のアルファベットでラベルと追加する。その際、括弧はつけない。ラベルのフォントは 12 ポイントして、大文字で表記する。図の説明は別のシートにまとめ、図を理解するにあたり十分な実験内容を記載する。ただし、「材料と方法」「結果」などの他のセクションで記載されている内容との重複は避ける。図は実際のサイズで用意するが、編集委員会は図のサイズを縮小する権利を有する。全てのグラフには、X 軸と Y 軸の線が必要である。文字や数字は 6 ポイント以上のフォントサイズにする。

- 補足資料(Supplementary data)

補足資料は、読者が原稿を理解する上で不可欠ではないが付加的な資料として提供される。補足資料は、データ、テキスト、音声、動画ファイルなどで構成され、受理された原稿と共にオンラインで公開される。利益相反(Conflict of interest)の後にタイトルをまとめたリストを記載する。補足資料も査読の対象となるため、著者は原稿提出の際には最終版を提出しなければならない。原稿受理後は、著者は補足資料に変更を加えることはできない。動画ファイルは.mp4, .avi, .mov ファイルとして 10 MB 未満にする。

- 用語

原則として、「学術用語集(動物学編, 植物学編, 化学編, 農学編など)」(文部省)および「新・英和和英 水

産学用語辞典」または「Web 版 新・英和和英 水産学用語辞典 (<http://www.jsfs.jp/d-dic/>)」(日本水産学会編, 恒星社厚生閣, 2017)に準拠する。

生物名は標準和名をカタカナで記し, 続けて学名をイタリック体で記載する。学名の前後には括弧やカンマは付けない。また, 学名の後に分類群を括弧付きで記載することは原則避ける。英文要旨では, 生物名の後に学名を記載し, 微生物名などはそのまま学名を用いる。命名者は原則省略し, 属名や種名を初めから略記してはならない。本文中での学名の重複はできる限り避けるが, 図表中の学名は略さない。

化学名は慣例に従い漢字またはカタカナで記載し, 原語が必要な場合は小文字で記載する。化合物の略語は国際的な慣例に従い, 必要に応じて本文中に注記する。外国語は原則としてカタカナ表記とし, 原語を用いる場合は人名, 地名, ドイツ語の名词, 固有の商品名を除き, 小文字で記載する。同一論文内で同じ物名に対して和語と外国語を混用してはならない。英文中の日本語はローマ字で表記し, イタリック体とする。

- 遺伝子(座)およびタンパク質の名称

遺伝子および遺伝子座の名はイタリック体, その産物であるタンパク質の名はローマン体で表記する。なお, それぞれの生物種で用いられている表記法に従い, 適切に記述することが求められる。

- 酵素

酵素名は, 本文中の必要な箇所に酵素番号および系統名, または常用名を記載する。酵素番号および系統名は, 国際生化学連合(International Union of Biochemistry and Molecular Biology, IUBMB)の酵素委員会(Enzyme Commission)によって分類された "Enzyme Nomenclature 1992" (Academic Press) に準拠する。ATPaseのように基質名の略記が慣例となっている場合を除き, 酵素名は省略しない。

制限酵素に関しては, "A nomenclature for restriction enzymes, DNA methyltransferases, homing endonucleases and their genes." (Nucleic Acids Res 2003; 31:1805-1812) に従って表記する。

- 核酸塩基およびアミノ酸配列

新規の核酸塩基配列およびアミノ酸配列データは, GenBank, EBI, DDBJ などのデータベースに登録する。文中で言及する核酸塩基およびアミノ酸配列のアクセッション番号は, アクセッション番号のセクションに記載する。

- 物理量とその記号

物理量の名称や記号は, 可能な限り国際純正・応用化学連合(International Union of Pure and Applied Chemistry, IUPAC)の勧告に従う。物理量の記号はイタリック体で記載し, 添字が物理量を表す場合はイタリック体, そうでない場合はローマン体で記載する。

単位

単位の記載においては, 表 1~3 の国際単位系(SI)を尊重する。略記する場合でも複数形に「s」を付けない。複数の単位の積で表される組立単位は, 各単位を積の記号「 $\cdot$ 」で結んで表す。ただし, 誤解の恐れがなければ積記号は省略可能。

例) $\text{N}\cdot\text{m}$ (Nm でも可)

複数の単位の商で表される組立単位は, 各単位を商の記号「/」または負の指数で表す。商記号は 1 つの組立単位内で 1 回のみ使用可能。負の指数を持つ単位が複数ある場合, それらはカッコ内に入れて表記する。

例) J/K または J K^{-1} , $\text{W}/(\text{m}\cdot\text{K})$ または $\text{W m}^{-1} \text{K}^{-1}$

表 1:SI 単位および併用される単位

物 理 量	SI 単位	SI 単位と併用される単位	使用を避けるべき非 SI 単位
長さ	m	ua, 海里	mμ, μ, in, ft, yd
面積	m ²	a, ha	
体積	m ³	L	ltr., cc
平面角	rad	°, ', "	
立体角	sr		
時間	s	min, h, d	
周波数, 振動数	Hz		
回転数		rpm	
波数	m ⁻¹	cm ⁻¹	
角速度	rad s ⁻¹		
角加速度	rad s ⁻²		
速度	m s ⁻¹	ノット	
加速度	m s ⁻²		
質量	kg	g, t, u, Da	Lb
密度	kg m ⁻³		
質量体積	m ³ kg ⁻¹		
力	N		kgf, dyn
圧力, 応力	Pa	bar	Torr, atm
表面張力	N m ⁻¹		
エネルギー, 仕事, 熱量	J	eV	erg, kgf m, cal
仕事率, 放射束	W		
力のモーメント	N m		
物質量	mol		
モル質量	kg mol ⁻¹		
モル体積	m ³ mol ⁻¹		
モル密度	mol m ⁻³		
質量濃度	kg m ⁻³		
モル濃度	mol m ⁻³	mol L ⁻¹ , M	N(規定度)
質量モル濃度	mol kg ⁻¹		
質量百分率		(質量%) ^a , (mass%) ^a	重量%, wt%
体積百分率		(体積%) ^a , (vol%) ^a	
質量百万分率		(質量 ppm) ^a , (mass ppm) ^a	重量 ppm, wt ppm
体積百万分率		(体積 ppm) ^a , (vol ppm) ^a	atom%
モル百分率	mol%		
温度	K, °C		Deg

表 2:SI 単位

物 理 量	SI 単位	物 理 量	SI 単位
熱容量, エントロピー	J K^{-1}	沈降係数	S
モルエネルギー	J mol^{-1}	熱流密度, 放射照度	W m^{-2}
モルエントロピー, モル熱容量	$\text{J mol}^{-1} \text{K}^{-1}$	熱伝導率	$\text{W m}^{-1} \text{K}^{-1}$
質量熱容量(比熱容量), 質量エントロピー	$\text{J kg}^{-1} \text{K}^{-1}$	電荷, 電気量	C
質量エネルギー(比エネルギー)	J kg^{-1}	体積電荷	C m^{-3}
体積エネルギー	J m^{-3}	電流	A
光度	cd	電流密度	A m^{-2}
輝度	cd m^{-2}	電位差(電圧), 起電力	V
光量子束密度(PFD)	$\mu\text{mol m}^{-2} \text{s}^{-1}$	電界強度	V m^{-1}
光束	lm	電気変位	C m^{-2}
照度	lx	電気容量	F
放射能	Bq	磁束	Wb
吸収線量	Gy	磁束密度	T
線量当量	Sv	電気抵抗	Ω
照射線量	C kg^{-1}	磁界の強さ	A m^{-1}
放射線量率	Gy s^{-1}	コンダクタンス	S
放射強度	W sr^{-1}	インダクタンス	H
放射輝度	$\text{W m}^{-2} \text{sr}^{-1}$	誘電率	F m^{-1}
粘度	Pa s	透磁率	H m^{-1}

表3:SI 単位の接頭語

大きさ	接頭語	記号	大きさ	接頭語	記号
10^{-15}	フェムト	f	10	デカ	da
10^{-12}	ピコ	p	10^2	ヘクト	h
10^{-9}	ナノ	n	10^3	キロ	k
10^{-6}	マイクロ	μ	10^6	メガ	M
10^{-3}	ミリ	m	10^9	ギガ	G
10^{-2}	センチ	c	10^{12}	テラ	T
10^{-1}	デシ	d	10^{15}	ペタ	P

- 文字指定

変数(統計に関する変数も含む)やパラメータはイタリック体で記載する。統計に関する変数については、慣例に従い、大文字と小文字を使い分ける。**p, r, n** については小文字表記が推奨されるが、必要に応じて大文字を使用してもよい。ただし、図表内の使用を含め、論文全体で表記が一貫していることが条件となる。

イタリック体とするもの: x, y, n (個体数など), p, r (相関係数), R^2 (決定係数), t -test, F -test, U -test

ローマン体とするもの(略記であって変数ではないもの): SD(標準偏差), SE(標準誤差), df(自由度; v は使わない)

化学関係の記号は次のように字体を区別する。

イタリック体とするもの: *o-, m-, p-, N-, O-, S-, n-, d-, l-, prim-, sec-, tert-, cis-, trans-*

ローマン体とするもの: pH, Rf, Cl⁻, bis-, iso-, homo-

8. 投稿について

8.1 カバーレター

投稿するには、以下の情報について記載するカバーレターを添付する。

- 論文の種別とタイトル
- 責任著者の連絡先
- 研究の目的と成果、および新規性および藻類科学への貢献についての簡潔な説明
- 推薦する、もしくは反対する編集者や査読者
- APC 免除の申請やその他の倫理的宣言、利益相反など、その他の重要情報
- プレプリントサーバーへの投稿の有無

8.2 原稿投稿先

原稿送付先は、「Algal Science and Technology」編集委員長宛とし、次の宛先とする。

〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立 2-2-1

宮城大学食産業学群 日渡 祐二 宛 E-mail: edit○applied-phycology.jp ←○を@にしてお送りください。

9. 受理後について

9.1 受理原稿電子ファイルの提出

受理通知を受けた後、著者は編集委員会の指示に従い、電子ファイルを提出する。また、微細な修正を加えた場合は、最終原稿の電子ファイルも併せて提出する。電子ファイルの原稿は、原則として受理された最終原稿と一致していることが求められる。もし修正が加えられた場合は、その修正内容について報告すること。画像ファイル形式は、Word, Excel, PowerPoint, TIFF, EPS のいずれかとし、300 dpi 以上の高解像度で保存すること。JPEG も受け付けるが、破壊的圧縮方法であることに留意すること。また、再現性を高めるために、オリジナルの写真や図表、本文体裁を反映した PDF を必ず添付すること。表については、PDF ファイルに加え、Word, Excel などのオリジナルファイルも提出すること。

9.2 採択された原稿

採択された原稿は、出版前に本誌の制作チームによって校正と組版が実施される。採択された原稿に関する全ての連絡は、責任著者との間で行われる。校正については、責任著者は、送られたページ校正の結果を原則、48 時間以内にチェックして返送する。校正の段階では、過度の変更は認められず、組版のミスや誤字・脱字に対する修正のみが認められる。別刷の注文書は、責任著者に対し校正と共に送付されるので、校正と共に返送する。責任著者には、出版版の論文 PDF が別途送付される。

9.3 機関レポジトリへの登録

本雑誌に掲載された論文は、日本応用藻類学会の許可なしに学術機関レポジトリに登録することができる。著者は論文の文献情報を明示する必要がある。

9.4 冊子表紙画像の応募について

本雑誌は、各号の冊子表紙に、その号に掲載される論文に関連する画像を使用することがある。表紙画像としての掲載を希望する場合は、受理された論文に関連する印象的な画像とその説明文(日本語または英語)を併せて E メールで提出する。なお、画像の採否については、編集委員会にて慎重に審議し決定する。

【表紙画像の募集要項】

- ・ 画像形式: JPEG または TIFF
- ・ 解像度: 300 dpi 以上
- ・ サイズ: A5 (148mm × 210mm) 以上
- ・ 説明文: 日本語 (200 文字以内) または英語 (100 語以内)
- ・ 提出先: Algal Science and Technology 編集委員会 edit○applied-phycology.jp ←oを@にしてお送りください。

10. 問い合わせ先

編集委員会/編集委員長宛のお問い合わせは、下記へご連絡ください。

[担当部署名, 担当者氏名] Algal Science and Technology 編集委員会, 日渡祐二

[E メールアドレス] edit○applied-phycology.jp ←oを@にしてお送りください。

[電話番号] 022-245-1214

最終更新日: 2025 年 6 月 17 日